

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 シルバーハウス 寿楽

ユニット名 寿楽

自己評価実施年月日 平成19年 9月初めから末にかけて

記録者氏名 上田 冬

記録年月日 平成 19年 10月 3日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域に自然に溶けこんだGHでありたいという願いもあり散歩を日課にしている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	新しい職員には折りに触れ理念の成り立ち経緯、そして実践の結果を話している。そうする事で共感を得、新旧チームワークの下、正しいことをやり続ける事が出来るGHを目指している。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	散歩や外出のおり、地域の方々との道ばたでの出会いがあり、声を掛け合う中で自然に発信できていると感じている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	昨日もお芋のつるやお花が届けられ皆さんとの楽しい対話が広まった。隣人は旅行に出るときは知らせて下さる。私達も同様に行っている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域民生委員の会や地域の趣味のサークルの会合 で学び合える機会を持つことが出来た。	○	2ヶ月に一度の運営推進会議の中で高齢者の暮ら しに役立つプログラムも立案していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価そのものから多くのことを学んできた。私達 が求められている事柄の深さに圧倒されながらも 全スタッフで姿勢を正す機会となっている。	○	昨年は改善点なしの評価を頂き胸が震えた。逆に 緊張感が芽生えた。当たり前のことを当たり前 にやり続けていけることが現場の力につながると感 じた。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	今年に入ってやっと2ヶ月に一度の開催を定着さ せることが出来た。皆さんの暮らしを垣間見て いただく事を主眼とし、日々の暮らしの報告も行っ てきた。出席して下さった方々からの意見や感 想を、同席できなかったスタッフにも伝え、暮ら しに生かせるよう努めている。	○	地域の方の声から、まだまだ認知症という病が 偏った見方をされている事に気付かされた。この 会の意義を全スタッフで共有し、2ヶ月に1回の 開催を意欲を持って望みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	日常的に行き来する機会はないが、制度上 の不明な点や相談したい事柄は、その都度連絡を 取りよりよい支援に繋げている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	昨年から今年にかけて、五回機会がありスタッ フも交代して、学び合うことが出来た。後見人制 度については該当者なし。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待の無い暮らしが徹底している。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい言葉で事例を交えた説明を行い、理解と同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の特性がある為その都度、状況にあった問いかけを行い意見や不満の声を聞くことに勤めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族会、運営推進会で左記の事柄の報告を定期的に行なっている ・日々の暮らし健康状況については来訪時報告を行い記録も見ていただけるように促しお願いしている	○
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・来訪時、ケアプラン作成時に願いや意見を頂けるよう対策を重ねている。 ・家族会では家族だけの話し合いの時間を設け意見、不満、家族間ならではの話しが出来る場となっている。後に報告を受け運営に反映している。	○
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	折りに触れ話し合いの場をもっている。意見を反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて勤務調整を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みのスタッフの必要性を重視しており移動は行われていない。また職員もチームワークをもって離職者を極力出さない努力を行っている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を回覧申し出を尊重し、交替で参加出来るよう配慮している。また十分ではないがOJTには意識して取り組んでいる。又、月2回学習会を夜実施している。	○	
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度地域のグループホーム職員との集いのひとときを持てるようになった（H19年5月より）	○	まだ土台作りの段階であるが学び合えることの多い結果を踏まえて、香美地区全部のGHに紹介をしていきたいという思いがある。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士支え合い、仲間として助け合いながら乗り越えてきている。また食事会などを設け親睦を図っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は私達が理念の具現化に向けて努力していることに対して、理解があり協力体制がある。各自の向上心につながっていると思う。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までに見学に来ていただき、どんな所か雰囲気を感じてもらおう事をしている。その中で本人の声や思いが出しやすい雰囲気を心がけ受け止めるように努力している。	○
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けるおりには、ゆっくり十分に話して頂けるよう配慮し、今求めておられることを受け止める努力をしている。	○ 説明不足への反省もあった。家族の立場に立った対応に努めていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の置かれている状況を把握できた時点で、よりよい支援の具体的方法や、社会資源を紹介する対応も行っている。	○ 24に同じ。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学を何度でもと勧めている。寿楽の暮らしが垣間見える場所から本人の反応を待ちつつ、徐々に入居者の皆さんがおられる場所へ誘うなどの工夫を行っている、その際の家族と相談しながら協力も頂いている。	○
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普通の暮らしを共に……と言う理念の下進んで来た。その過程でケアは決して一方向のものではないことを全職員が実感している。	○ この点については、常に振り返りを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族に相談を行い、常に連絡をとっている。嬉しい言葉が聞けた時には家族に伝え共に喜び合っている。本人と一緒に支えていくという関係が出来ていると思われる。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の様子を報告、相談行っている中で特に喜ばしい事は出来るだけ早くお伝えするように心がけている。また時間を経て語られる家族の思いを汲み取り、本人と家族との関係の調節に努めている。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・これまで大切にしてきた持ち物は持って来ていただくような働きかけや受け入れをしている。 ・今まで親しくしてきた隣人や友達の訪問は全職員が快くお迎えしている。また訪問していただけるような働きかけも行っている。	○	本人の認知の状況に配慮しながら、関係継続の支援を行ってゆきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が良い関係がはぐくまれるように職員は細やかな気配りが出来るようになった。また小人数で寛げる居場所作りとそこで過ごす支援も行っている。	○	細やかな気配りに努めていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も入院先を見舞ったり、相談を受けるなど、関わりを必要とされる方々との関係は自然に続いている。	○	一年の空白後ボランティアの申し出をしてくださった家族もあり、緩やかな関係を保っていくことの大切さを痛感している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを的確にに現せない方が、何を望んでいるか、どんな支援が必要か常に職員間で話し合い、気づきを出し合い本人の思いに添った支援に努めている。	○ 特に困難な方については、言葉ではない手がかりを拾い上げて、スタッフ間で共有。良い状態が保てるよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接から徐々に得ていく情報があるが入居後の本人家族との関わりの中でだんだんに把握できていくことも多い。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	暮らしの連続性の中で総合的にその方の現状を把握するよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、又、ふと耳にする本人からのメッセージを受け止めて、反映させている。週一回の合同介護計画や毎日の15分間ミーティングで検討し、介護計画に生かしている。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	気がかりなことや課題が生じたときは、そのつど話し合い、必要に応じて家族、関係者とも相談し、新たな計画作成に努めている。	○ 乱筆になるが、何とか記録を残し、全職員で共有することを、今年は目標にして努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践へ反映しやすい記録の取り方に工夫を重ねて介護計画の見直しに生かしている。	○	・家族にも読んでもらいやすい記録をめざしている。 ・十分ではなく今後も努力を続ける。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性 小規模ゆえに機動力はあり、本人家族の希望に添った柔軟な対応を心がけている。 急な外出の支援・正月を家族と迎える支援・歯科医の往診・家族の宿泊。	○	緊急な入居やショートステイの受け入れは困難であるが、その折々に相談にのり、しかるべき施設などを紹介している。 ・又相談に来られた方には、日中の利用を進めている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の方々と地域とのこれまでのつながりを（民生委員・JA婦人部・趣味のサークル）見出し、本人の意向に応じて、相談、協力を頂いている。又警察、消防、社協には寿楽の状況を説明し協力を頂いている。	○	ボランティアの受け入れを通して、地域との接点をより深めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や状況に応じて、他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、希望をかなえてきた経緯がある。又、他のGHのケアマネジャーとの学習会持ち、情報交換を行っている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員がこれまでに4名参加して下さり、寿楽の暮らしを見て頂く中で理解を深めてくださった。相談しやすい関係が生まれている。	○	認知症サポーター養成に協力することができた。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	看護職員を中心に、まだまだ不足している看護の知識や技術の修得に努めたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	家族が本人の気持ちを代弁し、又職員も表情やサインから汲み取りながら終末期に向けたチームでの支援を行ってきた。頻回に家族やかかりつけ医に相談をしながらも、不安も率直に聞いていただき懸命に取り組んだ。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしの様子を知っていただくため、介護要約して情報提供を行っている。又話し合いの中でその人らしさを伝えるよう努めている。	○	必要に応じて訪問、電話などで相談に応じている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	意識して行ってきた結果、プライバシーを損ねない自然な対応が出来ていると思われる。	○	継続していくための振り返りや、職員間の気づきを声に出して進めていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	左記のような支援を心がけているが入居者の皆さんも折り合いを付けながら暮らして下さっていると感ずることも多くあり、感謝している。	○	左記の為にその方の好み、関心、価値感などをしっかりと理解できるよう努めていく。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日体調などに配慮しながら一人ひとりのペースに合わせた暮らしを、職員は実直に守り続けてきている。	○	希望に添えないときもあるがその時で了解を得ながらの対応を心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自身で気を付けていた当時はどの様な好みだったのか、情報を得たり見学に来られた当時に振り返ってその人らしい身だしなみが整うような支援を心がけている。	○	理美容は以前に利用していた店に行く方、家族や本人の希望で近くの店も進めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りにはそれぞれの得意分野でかかわってもらえるよう支援している。一緒に作り一緒にゆっくり食べることの楽しさを大事に支援している。	○	
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	寿楽でのメニューを振り返るため一日の食べた物を書き出していくつでも手にとって読めるようにしている。その中に好評だったメニューや入居者の声などを書き入れるようにして、十分とは言えないが嗜好への支援をしている。	○	外食時に選ぶ楽しさや、難しさも体験されている。
56 ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じてチェック表にて排泄リズムを把握し尿意、便意の弱った方でも時間を見計らい誘導、排泄が習慣付くよう支援している。又トイレの場所がすぐ分かるようにトイレの照明をつけ戸を開けておくなど、又必要に応じて図や道具で案内を示すなど工夫をしている。	○	便秘の予防からも水分を多く摂ってもらうことをスタッフが意識している。又食材にも繊維の多い物を取り入れ、運動への支援も心がけている。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本として隔日入浴、14時30分～18時頃までとは決めさせてもらっているが入居相談の折説明を行っている。「気持ちよかった!」と感じて頂けるようゆっくりと静かな入浴支援を心がけている。	○	入浴剤利用、問いかけながら行っている。拒む方への対応策として工夫の充実に取り組んでいる。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床してから夕食後の団欒まで、その方にとって必要な関わりや行動を出来るだけ支援することで、穏やかに一日が終え、安眠に結びつくよう支援している。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・30分～1時間の午睡の援助 ・入居前に眠剤を服用されていた方々も全員不要となる
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	左記の通り努力している。まだまだ見出し得てない部分もあると思うが、一人ひとりの中に埋もれている力や関心事を引き出してゆきたいという情熱をスタッフは持っている。折に触れ家族から情報や協力も頂いて実践に向けて努力している。	○	ボランティアの力も頂きながら充実させていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方にとっていくつもの手続を必要とする、買い物がいかに困難なことかも職員は認識している。家族の意向も伺いながら支援している。	○	一人ひとりの希望や力に応じて買い物を楽しみ、自分から支払うことが出来るよう支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ外出を楽しみにして行ってきたが今年の夏の暑さにはギブアップ。開設以来初めて外へよう出れない日が続いた。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員の要望には応え切れていないが、入居者の皆さんから希望のある一泊旅行は、今年も実施できた。又電車に乗って行きたい希望も実施。	○	本人家族の希望を伺いながら協力も頂いて、普段行けない場所への外出支援がもう少し出来ればと願っている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が身近にあり心が動いたときに、かけたいと言ってもらえるよう心がけている。又家族との交信の際、替わって話し合える機会にすることもある。	○	一階のユニットでは家族と手紙のやりとりをしている方は今はいない。家族には何度かお願いをした経緯はある。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	常にくぐり戸は解放している。冷暖房の必要でない時、朝は居間から縁側の戸は開放しオープンな雰囲気心をかけてきた。道端から声をかけてくださる方もいる。又縁側は地域の方々とのちょっとした触れ合いの場所として活躍。来て下さる方々どなたでも一同で歓迎している。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行動を正しく理解し職員間の連携の下、身体拘束は行わない対応が出来ている。	○	入居前、服用していた抗精神薬については、家族、本人、かかりつけ医と相談しながら徐々に減量1週間から3ヶ月以内に全員服用中止で普通の暮らしをされている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	チームワーク作りをますます大切にしてゆく。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	たまにゆるむときもあるので、声に出し合ってゆく。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	十分ではないので、全ての職員が自信を持って事に当たれるように、繰り返し続けてゆく。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	近所の方々とも話題にのせ、お互い頼りにし合っている状態を、もう少し進めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に日々の暮らしをよく見て頂いて、その方にとって起こりうるリスクと対応策を説明する。それでも尚、起こるかもしれないリスクについての話し合いも重ねながら、抑圧感のない暮らしを継続してゆく力に変えている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早めの対応に心がけている。顔色、表情、さり気なく脈にふれる方法などを持ちながら体調の変化、異変の発見に努めている。又気付いた際には情報を共有し、対応を行っている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が追加されたときや内容が変わったときには薬の副作用についても把握しスタッフ間でも共有している。薬によっては差があるが7～10日間は経過観察を密にしている。	○	降圧剤が変わったり増量したりしたときは毎日の血圧測定を徹底し高いときには再チェックを必ず行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、繊維質の多い食材、寒天ゼリーを作ったり又起床時にはコップ一杯の水を飲んでもらったりして便秘の予防、対応に努めている。散歩に行けない日は建物内を一周するなどして散歩代わりの運動に努めている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。声かけがなくても習慣付いている方もいるが、力に応じて声かけ、見守り介助を行っている。	○	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量はカロリー計算をしたものではないが、一日1,500カロリーを目安としている。水分は少なくとも1,300ccを目標に摂取量を毎日チェック表に記録し職員が把握し対応している。水分を摂りたがらない入居者には個別の工夫をしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外から入って来るときには必ず手洗いとうがいをしている。入居者、職員だけでなく家族や来客の方にもお願いしている。感染症流行の時期には生物を控えるなど実行している。今まで6年間発症はない。	○	一年を通じて食材は必ず加熱をしてから調理をすることを基本として実行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は毎日日光消毒、布巾類は使用の度ハイター消毒を行っている。食材は日付確認をし、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	賞味期限が2日後になった食材は冷蔵庫内に専用のタッパーを用意して、それに入れ早く使用するよう表示している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季の草花を植え、緑と花を絶やさないようにしている。ご近所の方も一緒に楽しんでくださっている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、台所、食堂、トイレ、洗面所などに緑や花を絶やさないように心がけている。光の差込が強いと感じたら入居者の方が開閉を自由に調節しているし援助も行い心地よい空間づくりに努めている。又すだれや立てずを使って調整も行っている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2～3人が座れるソファ、ベンチを所々に置き思い思いに過ごせるようにしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居心地良く、又セルフケアにつながる環境作りの 大切さに職員は気付いている。テレビ、机、スタ ンド、CDカセット、花を飾るなど。その人に とって、くつろげる居室となるよう努めている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	時間を決めて換気を行っている。居室と廊下の温 度差がないように工夫している。数カ所に置いて ある温度計と入居者の様子を見ながら温度調節を こまめに行っている。エアコンの風が直接入居者 に当たらないように送風部に紙を使うなどして工 夫している。	○	居室の冷暖房をつけその空気を廊下にも流すよう な工夫をしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて手すりを至るところにつ け安全をめざしている。照明器具にも配慮し目に 優しい光を取り入れている。又夜間廊下から入っ て来る光が入眠を妨げないよう居室入り口の窓に は紙を貼っている部屋もある。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・掃除機の電源ボタンに目印をしている。 ・洗面台やトイレの照明スイッチにも目印をして いる。 ・カレンダーの終わった日に丸印などをする。 ・食後には食堂の出入り口にそれぞれの歯ブラシ とコップを置いている。	○	見える気づきをし誘う工夫をしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	小さいけれど『あなたの庭』が一ヶ所。『あなた とあなたの庭ね』も、一ヶ所ある。草も生えてい るが、花や野菜を植えている。穏やかな暮らしを 支えてくれている。	○	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

振り返り見直してゆく暮らしが原点にあります。まだまだ十分とは言えませんが、アピールしたいことを職員に問いかけました。返事の中で今年7月から勤務している職員の記述を引用します。「すごく良いと思う所は、屋内だけでなく馴染みの場所を散策することを楽しみな習慣とし、そのことで地域との関わりを持つことが出来るし、又筋力低下を防ぐことにもつながっています。こういう日中の過ごし方が、大切な睡眠が安眠となっていることが夜間勤務をしてみてよく分かりました…。」

責任者としてアピールしたい点は、二つあります。

①開設当初から寿楽の願いを支え続けてきた職員の存在です。

②入居者の皆さんです。高齢になって不自由さと不安を持ちながらも、新しい環境の中で周囲に対応しながら、何とかやってゆこうとされている姿に胸うたれます。